

天野寛子 フリー刺繍画展

2025/8/4・月 ~ 8/8・金

YO-HAKU (広島市中区小町 3-1 サンライズ小町 2F)

天野寛子フリー刺繍画展

一被爆証言一

F家の母と子らは、その日をどう生きたか

2025年8月4日(月) ~ 8月8日(金)

11:00 - 18:00 (初日は12:00から、最終日は17:00) 入場無料

今年は原爆が落とされて80年の節目の年です。2024年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞し、証言をし続けることの意義が、再確認されました。

大竹幾久さんは、アメリカ住んで、被爆証言活動をして来られました。被爆したとき5歳でしたから、自身の被爆時の記憶はおぼろげでした。被爆から46年後のある日、それまで原爆の話が封印してこられたお母さん(古田雅子さん)から、原爆が落とされた直後のことを話してもらいました。その記録と、幾久さんのその後の生活と葛藤をまとめたものが、大竹幾

久子著『いまなお原爆と向き合っ一原爆を落とせし国で』(本の泉社)です。

私は、この本から、お二人の証言を、フリー刺繍で作品にしてみました。2023年のギャラリーGでの展示後の新しい作品を是非ご覧いただきたい思います。

世界では戦乱が続き、平和が遠のいています。こういう時だからこそ「ノーモアヒロシマ、ノーモアナガサキ、ノーモアヒバクシャ 平和よあれ!」という叫びを、私もまたフリー刺繍画を通して伝えたいと思います。

8月5日(火)16時より 大竹幾久さんのギャラリートークを予定しています。

8月22日~25日、県民文化センターで開催される「戦争展」においても、作品が展示されます。

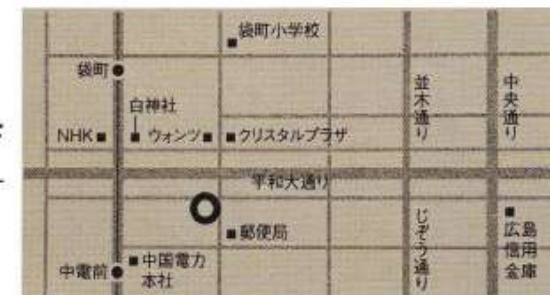


天野寛子

1940年生まれ。昭和女子大学卒業後、助手・講師・教授を経て2009年退職、昭和女子大学名誉教授。著書『戦後日本の女性農業者の地位』(ドメス出版2001) *日本生活学会今和次郎賞、山川菊栄賞を受賞。『繋ぐ一 天野寛子フリー刺繍画集』(2010)、『繋ぐ②一 東日本大震災一 天野寛子フリー刺繍画集』(2013)、『繋ぐ③一 東日本大震災一 針と糸で繋ぐところの風景 しゅう高田松原プロジェクト』(2021 天野寛子・中西朝子共編著)他。フリー刺繍歴:1986年桜井一恵に師事。「アトリエKAZUE」八重洲教室に所属。2007年以後、東京(複数回)、三重、沖縄、ウラジオストック、岩手、大阪、ニューヨーク(招待展)、京都、新潟、広島、福島等で個展を開催。

会場 YO-HAKU
広島市中区小町3-1 サンライズ 小町 2F

連絡先:木下啓子 090-7540-4596



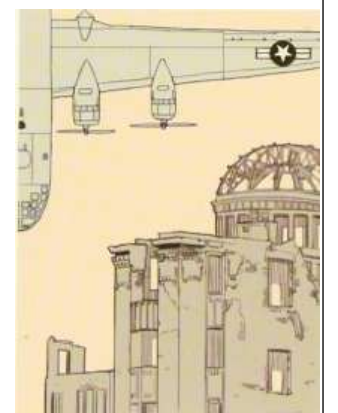
↑↑ (本の泉社 2015 年刊)

…今のうちに母から原爆のことを聞いておかないと後悔する。このままでは、私は、一生被爆体験が分からなくなる。気付くのが少し遅すぎたが、いまなら間に合う。

1991年の夏、アメリカから広島の実家に里帰りしていた私は、ついに意を決して、母に原爆の時の話を聞くことにした。その朝は、珍しく友人や親戚などの訪問客もなく、母と二人きりの静かな朝だった。勇気を出して、恐る恐る聞いてみた。「ねえ お母さん 原爆の時は、どうだったん?」

すると驚いたことに、母は嫌とは言わず、46年間の沈黙を破って、話し始めた……。

(「はじめに」より)



あんたらは原爆孤児になっちゃったかもしれんねえ

天野寛子フリー刺繍画展

2025.8.4(月)~8(金)

